

恐竜 Dinosaurs



恐竜博物館
ニュース

第65号

2022.3.17

福井県立恐竜博物館

特集：恐竜博物館この一年のあゆみ～2021年度恐竜博物館の動き～

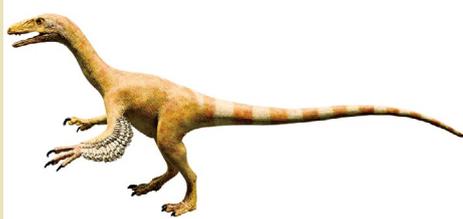
- 目次 ▼博物館トピックス「恐竜博物館この一年のあゆみ～2021年度恐竜博物館の動き～」…2～3
▼研究員のページ…4～5 ▼博物館学びの講座紹介／おすすめ標本紹介…6
▼糸魚川淳二先生を偲んで…7 ▼2022年4月～7月催し物、「恐竜の日」、「春の企画展」の案内…8



フクイベナートル・パラドクサス

Fukuivenator paradoxus

竜盤目 獣脚亜目 テリジノサウルス類
前期白亜紀
福井県勝山市北谷町



全体の約7割もの化石が見つかり、2016年に命名された小型獣脚類です。2020年から全ての化石がCTスキャンにかけられたことで研究が進展し、分類や復元が見直されました。

恐竜博物館この1年のあゆみ

2021年度 恐竜博物館の動き

新型コロナウイルスへの 対策の実施

2021年度は、博物館スタッフの新型コロナウイルス感染が判明したため、5月9日(日)から5月11日(火)まで、また、「福井県感染拡大特別警報」の発令により、8月7日(土)から9月30日(木)まで長期にわたる臨時休館となりました。

新予約システムの導入

7月1日(木)から、これまでの予約メール等による目視による予約確認に代えて、スマートフォンやプリントによるQRコードを使用した予約確認を行なうシステムに変更し、スムーズに入館していただけるようになりました。



QRコードによる予約確認

電光掲示板による 情報提供の開始

来館者への情報提供サービスとして、4月29日(木祝)から、予約制、道路状況等の情報提供および感染予防対策の呼びかけを行うため、主要道路脇3ヶ所に電光掲示板(可搬型LED標識装置)を設置しました。



電光掲示板(勝山インター出口)

展示解説アプリの サービス開始

音声ガイドのサービスに代えて、スマートフォン用の展示解説アプリを開発し4月3日(土)からサービスを開始しました。

アプリは無料でダウンロードでき、館内施設案内や、フロアマップを閲覧できるほか、アプリを通じて博物館の最新情報を配信することもできます。音声ガイド機能を利用する場合は、料金(500円)を支払ったうえでQRコードを読み込んで利用できます。

言語は日本語(一般)以外に日本語(子ども用)、更に英語、中国語(繁体・簡体)、韓国語に対応しています。



展示解説アプリ

GWは、「恐竜こいのぼり」と 「雪山」でお客様をお迎え

福井で発見された新種の恐竜5体を「恐竜こいのぼり」に仕立て毎年GWに掲揚していますが、これと併せて今年は、2022年1月の大雪で降り

積もった雪を保管して作った「雪山」で、子どもたちに初夏の雪を楽しんでいただきました。

「恐竜こいのぼり」は、10月まで掲揚しました。



雪山で遊ぶ子どもたちの様子

恐竜博物館の リニューアル工事

2023年夏頃のオープンを目指して恐竜博物館の機能強化整備を行っています。

造成工事が完成し、建築工事等の本格工事に着手するため、請負業者による安全祈願祭が10月8日(金)に開催されました。



安全祈願祭

館内でリニューアル後の恐竜博物館の模型を展示していますのでご覧ください。



「恐竜の日」 展示解説特別ツアー

「恐竜の日」である4月17日(土)を記念して、国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）から講師をお招きし、春季企画展「生命躍る海～その知られざる世界を探る！～」の展示標本を解説する展示解説特別ツアーを開催しました。



展示解説特別ツアーの様子

野外恐竜博物館

開館8年目の野外恐竜博物館を、4月22日(土)に再開し、市内の小学生による出発式と掘り始め式を行いました。



掘り始め式の様子

感染防止対策として利用者数を制限して運行したことから、10月31日(日)の営業終了までの間に利用されたお客さまは11,901人で、通算の利用者数は、約24万人となりました。2022年度は、4月21日(土)から再開する予定です。

特別展の開催

2021年度特別展「海竜～恐竜時代の海の猛者たち～」を開催しました。2年ぶりの開催となった今回は、中生代の絶滅した海生爬虫類を初めてメインテーマとし、その生態や進化の秘密について紹介しました。



研究員による解説

日本初公開となるグリフォデルマ・カンギヤ全長約13mのティロサウルス・プオリゲルなど約80点の標本を展示するとともに、CG映像やフクイベナートルロボットなどを活用した展示も行いました。



大盛況の特別展の様子

途中、新型コロナウイルス感染拡大の影響により55日間の臨時休館を余儀なくされましたが、期間を延長して開催した結果、総入場者数は165,617人となり、大盛況のうちに閉幕しました。

● 期間：2021年7月16日(金)
～2022年1月10日(月・祝)
※8月7日(土)～9月30日(休)までは臨時休館

第四次恐竜化石発掘調査

勝山市北谷町の発掘現場において、7月26日(月)から9月10日(金)にかけて、2021年度の第四次恐竜化石発掘調査を実施しました。同調査は、2013年からスタートし、今年度が9年目になります。今年度の調査では、1,760点の骨化石が採集されるなど、多くの成

果が得られました。

【恐竜化石発掘調査】

● 期間：2021年7月26日(月)
～9月10日(金)
● 調査地：勝山市北谷町杉山



発掘調査現場

新種のゴキブリ類化石発見

北谷町の恐竜化石発掘現場で発見されたゴキブリ類の化石5種のうち3種が新種であることが判明しました。同じ場所から複数種のゴキブリ類が報告されるのは日本の白亜紀の地層からは初めてで、当時の北半球におけるゴキブリ類の進化を理解するうえで重要な情報となります。



記者会見の様子

2022年春季企画展

化石と現生を比べて、古生物を楽しみながら学んでもらうことをテーマに、これまで展示の機会が少なかった標本を多数紹介します。

なお、リニューアル工事のため、特別展示室での展示はこの企画展が最後となります。

● 開催期間
2022年3月19日(土)～5月8日(日)
● 開催場所
3階特別展示室
(喜多山真二、松山知美)

恐竜の直立姿勢

研究・展示課課長 一島 啓人

はじめに

「直立姿勢だった頃のティラノサウルス」という言い方は、今でも時折聞かれる。でも、なぜ過去形？「恐竜は直立している」で良いのではないだろうか。過去形のそれは、いわゆる“ゴジラ型”復元姿勢のことであり、現在言われる恐竜の直立姿勢は、頭から尻尾まで地面と水平に伸ばした格好で、後脚が下に伸びる姿勢を指す(図1,2)。「恐竜の直立姿勢」は、普段脚のつき方を気にしない一般の人にとっては、どちらの格好を指すかについて誤解を招きかねない表現なのかもしれない。恐竜の姿勢について普及を心がける機関の一研究者として、本稿では、恐竜、鳥類、哺乳類、そして人類の姿勢を例に取り、「直立」について寸考してみたい。

直立—恐竜を見分ける特徴

恐竜時代には翼竜や海の爬虫類も栄えていたが、カメやワニと違い、一見

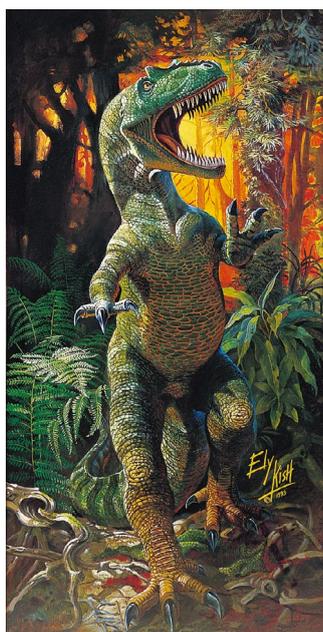


図1. “ゴジラ型”のアロサウルスの姿勢 (アロサウルス/エレノア・キッシュ作)

したところでは恐竜と区別のつけにくいそれらは、“恐竜”として一緒にたにされることが多い。これは洋の東西を問わず同じである。そのため、我々古生物学者は、「恐竜図鑑」に載っているそれら「海や空の恐竜」が恐竜ではないことを伝える普及活動に常に取り組んでいる。翼竜や水生爬虫類は恐竜ではないと言う以上、恐竜を恐竜たらしめる特徴があるわけだが、専門的な骨の細かな特徴はさておき、最もわかりやすいものは以下の2つだろう。

- 太ももの骨(大腿骨)が関節する骨盤の部分(寛骨臼)に骨の壁がなく貫通している。(図3)
- 脚(大腿骨)が体の横へ突き出すのではなく下向きに伸びる。(図4)

このうち2つめの「脚の伸び方(つき方)」が、最も目立つ。そして、しばしばこの特徴は哺乳類の脚のつき方と同一視され、「直立姿勢」と称される。ちなみに、翼竜や水生爬虫類の脚は胴体から側方(気味)に突き出しているため、その点で明らかに恐竜と異なる。

直立とは

「直立姿勢」は、恐竜を他の爬虫類から区別する主要な特徴の一つとして、今ではよく知られる¹。二足/四足に関係なく恐竜の姿勢が「直立」と表現されるのは、四肢の伸長方向が一

般的な爬虫類のように胴体から側方へ突き出すのではなく、体の下に伸びることによる。同じ観点から、四足歩行の哺乳類も直立姿勢とされているが²、世の中一般に哺乳類の姿勢は直立と認識されているだろうか。直立と言えば普通は人間である。イヌやウシなどが「直立」していると言われれば、多くの人は後ろ足で立ち上がるイメージが思い浮かぶのではないだろうか。獣脚類の「ゴジラ型(もしくはカンガルー型)の直立姿勢」も、胴体を起こして後ろ足二本で立っていることを言っているのであり、「直立四足」という概念は、一般にはあまり馴染みのあるものではないように思う。人類の場合はさらに胴体を90°起こして後肢の上に乗っており、一般的な哺乳類の直立姿勢からもう一段階変化している。英語でもerectやuprightなどの「直立」を表す語は、恐竜や哺乳類の脚のつき方に対してだけでなく、人類の姿勢に対しても使われるので、英語圏の人々も直立に対する認識や表現の仕方に曖昧さがあると言えるだろう。あるいは人の語彙の限界と言えるのかもしれない。

直立二足歩行

以上のことを踏まえると、獣脚類のような恐竜の姿勢はどう表現されるだろうか。その前に人類の姿勢を今一度見てみよう。人類の「直立二足歩行」とは、胴体と下肢を真っ直ぐ伸ばした姿勢のまま歩行する人類特有の歩行様式で、人類だけに生じた独特の形質である^{3,4}。人類の進化における直立の起源は、ヒト科のどの分類

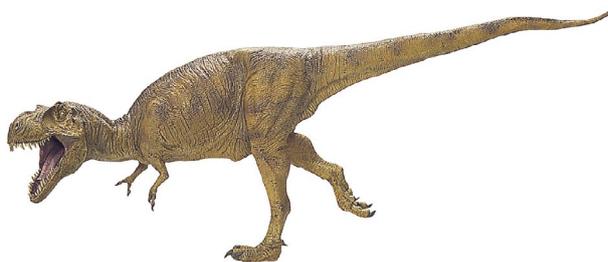


図2. 現在考えられる恐竜の直立姿勢

おわりに

恐竜の直立を説明する際、説明者と聞き手の間で異なるイメージを抱いている可能性は十分あり、それゆえ不用意に持ち出した言葉によって、むしろ相手に誤ったイメージを喚起することも考えられる（獣脚類を模したおもちゃの中には、立ち姿を安定させるためか、現在でも“ゴジラ型”のものがある）。動物の姿勢は、一般の人々にとっては普段の生活ではあまり考えない事柄に属すると思われるので、説明者と聞き手の互いの思い込み、あるいは“常識”の差によるイメージのずれの違いによる誤解をできるだけ避けられる説明を心がけたい。



図5. コサギの骨格。青矢印が太ももの骨（大腿骨）。人間で言えば、「空気椅子」のような格好で膝を曲げているが、鳥類にとってはこれが「自然な姿」である。

参考文献

- 1 Bakker, R.T. (1971) Dinosaur physiology and the origin of mammals. *Evolution*, 25, 636-658.
- 2 Radinsky, L.B. (1987) *The Evolution of Vertebrate Design*. University of Chicago Press, 188pp.
- 3 香原志勢 (1992) 人類の直立姿勢再寸考. *バイオメカニズム学会誌*, 11, 1-10.
- 4 木村 賛 (2014) サルからヒトの二足歩行を考える. *バイオメカニズム学会誌*, 38, 169-174.
- 5 松村秋芳 (2012) 歩行の比較：初期人類と類人猿の下肢形態からみた直立二足歩行の進化. *昭和医学会雑誌*, 72, 170-176.
- 6 Kimura, T. (2019) How did humans acquire erect bipedal walking? *Anthropological Science*, 127, 1-12.

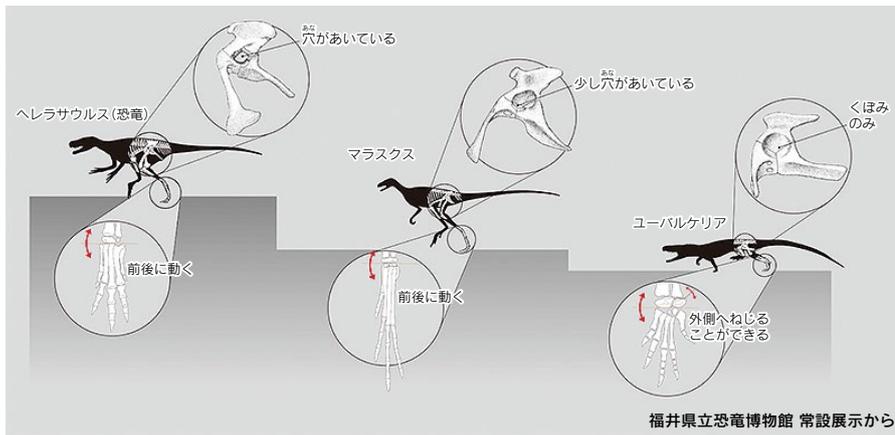


図3. 太ももの骨がはまるよりの骨の壁（寛骨臼）に注目。ほとんどの恐竜（と鳥）では壁がなく貫通するが、それ以外では壁があり、椀のようにになっている。

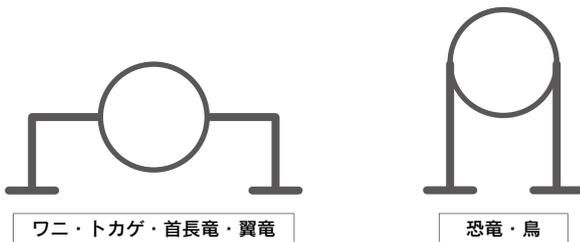


図4. 動物の体を輪切りにして脚のつき方をわかりやすくした模式図。ワニやトカゲでは太ももの骨が横に突き出すが、恐竜と鳥では体の下に伸びる。

群にいつころ生じたかがこれまで詳細に検討されており、直立の証拠として脊柱、大腿骨、骨盤、足の形状などに検討が加えられ、大後頭孔の位置も含めて多方面から論じられてきた。直立二足歩行獲得前の人類の姿勢は、ゴリラなどの類人猿に見られる膝や腰を曲げた前傾姿勢だったと思われる、その状態では直立とはみなされない。おそらくこのような話の流れも「直立」が人類的姿勢と同義とされる一因なのではないかと疑われる。というのも、哺乳類の基本姿勢がそもそも直立であるのに、人類の系譜として「まだ直立ではない」という時点で、直立は自ずと人類的姿勢に限定されるからであり、この問題に「直立 erect」の抱える多義性とそこから派生する誤解の元が露呈していると言える。

直立+二足歩行≠直立二足歩行

さて、恐竜である。恐竜は「直立」している。さらに獣脚類は「二足」である。しかし、体幹（胴体）は水平位である。人類特有の姿勢である「直立二足歩行」は、胴体が起き上がるこ

とで実現されており、頭頂から足底まで膝関節を含めて真っ直ぐで地面に対して垂直であるため⁵、単なる二語の組み合わせ

とは意味が異なる。「二足歩行」は鳥類にも見られる。大腿骨も体の下に来るので直立型である。しかし、恐竜同様体幹が水平位である上に、大腿骨は体幹とほぼ水平に前向きで固定されており（ヒトで言えば90°近く曲がっている）、ヒトの意味での直立二足歩行ではない（図5）。ちなみに、ペンギンは胴体が起き上がっている上に二足で歩くが、他の鳥類同様、膝を強く屈曲させており、直立二足歩行とは言えない。このように、鳥（と恐竜）は「直立」で「二足歩行」ではあるが、「直立二足歩行」ではない。

英語で人類の直立二足姿勢を表す場合は、直立 (erect) と二足 (bipedalism) を組み合わせて、erect bipedalism, erect bipedal walkingなどと表す⁶。しかし、胴体が起き上がることを言い添えないと、人類の直立二足歩行の状態を正確に言い表すことができないのは日本語と同様のため、鳥類の「直立+二足」と異なることが、英語圏の一般の人々にとっても自明とはいえないのではないかと推測する。

恐竜が出現するより昔、ペルム紀／三畳紀境界に起きた地球史上最大の絶滅事変について、生物への影響や原因の究明に関する研究をご紹介します。大規模噴火に端を発した広範囲の環境悪化によって大量絶滅が起き、生態系の構成はこれを境に大きく変化、やがて爬虫類が支配的になる中生代の世界へと繋がっていきます。

当館ではあまり馴染みのない内容のお話となりましたが、細部まで熱心に質問をいただきました。恐竜たち爬虫類の躍進のきっかけとも言えるこのイベントについて興味をもっていただいたのなら嬉しく思います。最後にはおまけでパズル「ペルム紀減衰生物ワードシーク&三畳紀放射生物スケルトン」にも取り組んでいただきました。

(静谷 あてな)



系統樹は、進化の道すじを表した樹形図です。「系統樹をつくろう」は、系統樹の中でも、展示や図鑑などで目にする機会が多く、近年では生物分類にも用いられる「分岐図」を実際に描いてみる実習形式の講座です。分岐図を求めるにはコンピュータで系統解析を行うのが一般的ですが、ここでは福井の恐竜化石発掘現場で見つかる貝化石5種を対象に、表やイラストを使って、系統解析の基本的な理論を視覚的・直感的に理解してもらうことを目標としています。講座を受けた後には簡単な分岐図であれば自分でもつくれるようになります。結果として、系統樹から読みとれる情報が増えることで、展示や図鑑をさらに楽しめるようになることも狙いのひとつです。

(蘭田 哲平)



こんにちは。恐竜博物館 研究職員の中山健太郎です。私は今現在の海に生きている貝類や化石になった貝類を研究しています。そんな私がオススメする標本は「タカハシホタテ」です！ホタテという名前でも分かる通り、私たちがお寿司のネタとしてたべているホタテガイの仲間で、今ではもう絶滅してしまった二枚貝です。

タカハシホタテの魅力の一つは、大きい殻を持つ点です。タカハシホタテは大きくなると20cmを越え、大人の顔くらいまで大きくなります。その大きさは、これまで数多くの古生物学者やアマチュア化石収集家を虜にしてきました。かく言う私もタカハシホタテの重厚さに魅了されたひとりです。



和名：タカハシホタテ
学名：Fortipecten takahashii

その大きい殻で多くの人を惹きつけるタカハシホタテですが、その大きさ故、困ったこともあったようです。今生きているホタテガイは二枚の殻をパタパタさせて泳ぐことができます。タカハシホタテもホタテガイと同じように、子どもの頃（幼貝）には、パタパタと泳ぐことができましたが、大人（成貝）になると殻が重くなって泳げなくなり、湾曲した殻を下にして、海底に横たわるように生きていたと考えられています(中島, 2007)。

そんな魅力が詰まったタカハシホタテの化石は、恐竜博物館2階の生命の歴史コーナーの一角に展示しています。ここにはタカハシホタテだけではなく、他の貝類達もたくさん展示していますので、博物館へお越しの際には是非ともご覧になってください！

(中山 健太郎)

図①：タカハシホタテの展示場所（2階 生命の歴史） 図②：展示しているタカハシホタテ 図③：タカハシホタテの写真（左：真上からの写真、右：横からの写真）

糸魚川淳二先生を偲んで

福井県立大学名誉教授・福井県立恐竜博物館名誉顧問 東 洋 一

2021年11月11日、名古屋大学名誉教授糸魚川淳二先生がご病気のため、92歳でご逝去されました。糸魚川先生は、京都大学理学部をご卒業され名古屋大学理学部教授を務められました。また、新生代軟体動物化石研究の第一人者で、日本列島形成史・日本海の拡大・古動物地理など幅広く研究を展開されました。さらに、瑞浪市化石博物館の設立にご尽力され、豊橋市自然史博物館館長なども歴任されました。

私は恐竜などの脊椎動物化石の研究に携わってきましたが、元々は福井県を中心とした北陸地方や丹後半島に分布する新第三系の地史（地質）を研究課題としていました。その研究に関連して新生代貝類化石を採集していました。糸魚川先生にはこの新生代貝類化石の同定や古環境などについて様々なご指導をいただきました。私の師匠に当たる故三浦静福井大学名誉教授が糸魚川先生の京大理学部の先輩にあたり、三浦先生から糸魚川先生の研究について詳しく教えていただくと共に、先生にご紹介いただいたのが糸魚川先生との出会いでした。

また、糸魚川先生との忘れ難い記憶は、1987年8月に韓国ソウル大学で環太平洋学術会議があり、そこで糸魚川先生とお会いした事です。その学術会議に関連して、慶尚南道・慶尚北道・江原道の日本海沿岸域に分布する新生代の地層をめぐる巡検があり、糸魚川先生ご夫妻とご一緒できました。この巡検はソウルオリンピックの前年という事もあり、我々の乗ったマイクロバスの前後にパトカーや警察車両が護衛にあたり、信号も全て“青信号”で通過するという貴重な体験だったの

です。

先にも記しましたように糸魚川先生は、瑞浪市化石博物館や豊橋市自然史博物館の設立や運営に携われておられ、博物館学関連の著書も多く出版され博物館に関しご造詣が深いことはよく知られています。福井県立恐竜博物館の前身である福井県立博物館が開館（1984年）して6年目を迎え、10年目を目指して「県立博物館展示改善専門委員会」が平成元年から開催され、専門委員として糸魚川先生にご就任いただき、自然史系の展示に関してご意見をいただきました。当時福井県立博物館の自然系展示は、歴史展示の導入部で狭い展示面積でしたが、5回の委員会を経て恐竜発掘の実績も踏まえ、自然系展示の増築計画案が策定されました。糸魚川先生のご意見の賜物と私は思っています。

この増築計画案を当時の栗田幸雄福井県知事にご報告すると、栗田知事は全く違う構想を持っておられました。それが「県立恐竜博物館」構想でした。この構想は実現に向かって進行しました。1995年9月に「県立恐竜博物館（仮称）基本構想・計画策定委員会」が発足し、翌年にかけて5回の委員会が開催されました。この委員にも糸魚川先生にご就任いただき、機能・活動・運営計画・展示など先生の経験などをもとに熱心にご検討賜りました。そのお陰で、2000年7月に建築面積約15,000平方メートルの恐竜博物館が開館できたのです。

開館後も紀要編集委員を

お引き受けいただき、投稿論文の査読などのご指導を賜りました。編集委員としては、紀要1号（2002年3月発行）から16号（2017年12月発行）までの長きに渡ってお世話になりました。さらに、県立博物館時代から恐竜博物館設置後も5回に渡り資料評価委員をお願いして参りました。特に2015年度には、資料評価委員長として林原自然科学博物館が所蔵していた標本の評価を務めていただき、当館の資料充実にご助力くださいました。このように、当県の博物館における自然史系の展示や運営などについて、糸魚川先生のご指導によって、今日の恐竜博物館の礎の一つが築かれたと確信しております。

私は、40年以上に渡って公私共に糸魚川先生にお世話になりました。研究や展示だけでなく、私の人生における様々な岐路の時点でも御助言を賜りました。先生の誠実で温厚なお顔が私の脳裏に焼き付いています。

糸魚川先生のご霊前に、心からの哀悼の意を捧げます。先生、安らかに眠りください。



博物館学びの講座

ご案内

2022年4月～7月

※恐竜博物館ホームページの「申込フォーム」からお申し込みください。
 ※開催日の一ヶ月前から受付を開始し、定員に達し次第締め切り。
 【子ども工作教室】は、開催日の一ヶ月前から7日間受付し、抽選にて参加者を決定。
 ※10回参加いただけますと「博物館学びの講座認定証」を発行いたします。(年度をまたいで可)。
 ※当館Webサイトの行事案内ページ(<https://www.dinosaur.pref.fukui.jp/event/>)もご覧ください。
 ※行事の日程、内容等につきましては、変更になることがあります。



博物館セミナー

- 対象/一般 30名
場所/研修室
- アンモナイトの足は何本だったの？**
 日時/5月15日(日) 14:00～15:30
 内容/アンモナイトは有名な絶滅動物ですが、生物としての姿や生態はあまり知られていません。実はそれらについてはこれまで多くの謎に包まれていましたが、最新研究ではその一端が解明されています。そこで今回は近年の発見を含むアンモナイト生物学の現在の到達点を紹介します。
 講師/中田 健太郎
 - 日本で見つかる恐竜時代の卵化石**
 日時/6月5日(日) 14:00～15:30
 内容/卵化石は、実は珍しい化石ではありません。日本各地の恐竜時代の地層から発見の記録があり、研究も進んでいます。このセミナーでは、これまで日本の恐竜時代の卵化石からわかったこと、そして日本で卵化石を見つけるコツについてお話しします。
 講師/今井 拓哉
 - 三疊紀のふしぎな海**
 日時/6月26日(日) 14:00～15:30
 内容/首長竜もモササウルス類もまだ登場していなかった「三疊紀」のふしぎな海の世界について、国内の化石の発見例を交えてご紹介します。
 講師/静谷 あてな
 - 翼竜になったスッポンの話**
 日時/7月10日(日) 14:00～15:30
 内容/昨年、茨城県の海岸で2002年に発見された翼竜の肩甲骨の化石が、じつはスッポンの上腕骨の化石だったことが判明しました。どうしてスッポンの上腕骨が翼竜の肩甲骨に間違えられたのか、断片的な骨化石からどうしてスッポンだと分かったのかということに加えて、スッポンの起源や形態的な進化のプロセスについてもくわしく解説します。
 講師/園田 哲平

博物館自然教室

- 対象/小学生の親子 30名
場所/実習室
- 恐竜時代の木の化石をしらべよう**
 日時/4月10日(日) 14:00～15:30
 内容/恐竜時代の木の化石を磨いて酸で溶かして、シールを貼り付け、そのシールをはがすことで木材の内部が観察できるプレパラートが作れます。そのプレパラートから木の種類を調べます。
 担当/寺田 和雄
 - フクイティタンの手足をふくげんしよう**
 日時/5月22日(日) 14:00～15:30
 内容/フクイティタンは、前足と後足の骨の化石がたくさん見つかっています。どの化石がどこの部分なのか考えながらパズルを組み立てて、フクイティタンの手足を完成させましょう。
 担当/関谷 透
 - 肉食獣(にくしょくじゅう)の歯を調べてみよう**
 日時/6月12日(日) 14:00～15:30
 内容/肉をたべる動物には肉をかみ切る、骨をかみ砕く特殊な機能があります。歯のレプリカを作ってクイズ形式でその機能を解き明かします。
 担当/宮田 和周
 - 足跡の正体を解き明かそう**
 日時/7月3日(日) 14:00～15:30
 内容/獣脚類や竜脚類、鳥脚類はそれぞれのグループで個性的な特徴を持っていますが、それは足跡の形にも表れています。様々なグループの足跡と足の骨を見比べながら、どのグループの恐竜がどんな足跡を残すのか解説していきます。
 担当/築地 祐太

子ども工作教室

- 対象/4歳～小学3年生の親子 15組
場所/実習室
- 親子で化石のレプリカをつくろう！**
 日時/4月24日(日) 14:00～15:30
 内容/石こうを使って、アンモナイトなどの化石の複製をつくります。
 担当/千秋 利弘
 - 偏光板(へんこうばん)で恐竜スタンドグラスをつくろう！**
 日時/5月29日(日) 14:00～15:30
 内容/偏光板(へんこうばん)のふしぎにふれながら、まわすと色が変わる恐竜がたのスタンドグラスをつくります。新回とはすこしがうつくりにかたで、新しい色やもようにもちようせんしてみましょう！
 担当/小泉 早千穂
 - 光る！恐竜ちようちんをつくろう！**
 日時/6月19日(日) 14:00～15:30
 内容/恐竜の特徴を覚えながら、オリジナル恐竜ペーパークラフトと紙ちようちん・電球を組み合わせて、恐竜ちようちんを作ります。お祭りで使うのももちろん、インテリアとしても最適です！
 担当/蘇 綾
 - 親子で恐竜模型をつくろう！**
 日時/7月24日(日) 14:00～16:00
 内容/恐竜の骨格をもとに、粘土を使って恐竜を復元します。
 担当/恐竜造形家 荒木 一成 先生



2022年度および2023年度は、リニューアル工事のため特別展は開催いたしません。ご了承ください。

4月17日は「恐竜の日」です

恐竜の日特別講演会を開催します。
 演題/「恐竜の入り口」
 内容/恐竜博物館の講座シリーズがいよいよはじまります。その入り口として、恐竜の基本を学びましょう。恐竜はどういう生き物？恐竜博物館にはどんな展示物があるの？なぜ福井は恐竜王国なの？など、知って得する恐竜知識を紹介します。
 日時/4月17日(日) 13:30～15:00
 場所/3階講堂
 講師/主任研究員 柴田 正輝

- 「恐竜の日特別講演会」のほか、4月18日(月)～24日(日)の科学技術週間の関連行事として次の行事を開催します。
- ◆4月21日(木) 野外恐竜博物館再開
 恐竜化石発掘現場を間近に見ながら、化石の発掘体験ができます。
 - ◆4月24日(日) 子ども工作教室「親子で化石のレプリカをつくろう！」
 石こうを使って、アンモナイトなどの化石の複製をつくります。
 ※詳しくは、上記【子ども工作教室】をご覧ください。

2022年春の企画展

「比べて楽しむ古生物の世界」

開催期間
3.19 ▶ **5.8**
 開催場所
3階特別展示室

化石となった太古の生物と今生きている生物を比べることで、恐竜をはじめとする古生物を身近に感じ、楽しく学んでいただきます。初公開の標本も多数登場します。



Dinosaurs 恐竜博物館 ニューズ 第65号 (第2巻) 発行日: 令和4年3月17日発行
 印刷: 河和田屋印刷株式会社
 発行: 福井県立恐竜博物館 〒911-8601 福井県勝山市村岡町寺尾51-11

TEL: 0776-88-0001(代) URL: <https://www.dinosaur.pref.fukui.jp/>
 FAX: 0779-88-8700